

「不登校対策セミナー」だより (全4ページ)

*セミナーについてのご意見・ご感想、ありがとうございました。



9月17日(土)は鳥取市総合福祉センターにて、25日(日)には米子コンベンションセンターにて、「不登校対策セミナー(サポートコース)」を開催しました。

6月「不登校対策セミナー(Basicコース)」の参加者の中で、「より深く学んでみたい」と希望された方が対象です。より「有効な」取り組みにするためには、節目節目で、自分の取り組みをふり返ったり、実践力アップにつながる新たな学びが不可欠です。そこで、開催したのが、9月セミナーでした。

9月セミナーに参加していただいた皆さんから、**ご意見・ご感想**をいただきました。以下に紹介するのは、その中で、「啓発活動に活用してもよい」と、OKをいただいた方のご意見・ご感想です。

互いに情報を共有し合うことで、セミナーで学んでいただいたことの理解がさらに深まり、今後の実践力のアップにもつながると考え、・・・まとめました。

◆参加された皆さんのご意見・ご感想について・・・

*ご本人のお考えを尊重し、原文をそのまま、記載させていただきました。



【保護者 A さん】

<感想・意見など>

- ・以前セミナーに参加し、私(母)だけでなく、父や祖母にも話し、実践することで、子どもが安定してきたように思います。
- ・今は、一人で行けるようになったので、ついあれこれ口を出してしまいましたが、「学校へ行こう」という気持ちを、今は大事にしようと、再認識しました。
- ・「子どもの気持ちに共感する」ことを、今後も続けていこうと思います。

<印象に残った内容・参考になった内容>

- ・お父さんの関わり方が重要であること(以前、子どもが登校を渋っていた時は、お父さんは怒ってばかりだったけど、不登校を経て、たまに学校に再登校するようになったら、「お父さん、優しくなった」と話していたことがあり、お父さんとの関係も、子どもにとって気持ちの安定につながっているのだと感じていました。)

【保護者 B さん】

<感想・意見など>

- ・子どもが登校できるようになると、欲が出てしまい、つい、あれこれと言ってしまう。セミナーでお話を聞き、「これでは、いけない」と反省しました。
- ・子どもが安定して登校できるようになるまでは、ゆったりと構えて関わっていきたいと思います。(正直、焦りは感じますが、・・・)

<印象に残った内容・参考になった内容>

- ・「父親の役割」のお話は、とても参考になりました。
- ・子どもは、父親をモデルとし、「お父さんなら、きっとこんなふうに行動するだろう」という感じで行動する、というお話は、特に、参考になりました。

【地域で支援活動をされているCさん】

＜感想・意見など＞

- ・不登校の改善に向けて、熱意をもって話していただき恐縮です。
- ・この状況が「共に～という姿勢」で、当事者の方々に伝わると、・・・と思います。
- ・私は、〇〇を学びとさせていただき、次の一歩につながればと思うものです。
※すません、「〇〇」が読み取れませんでした。

＜印象に残った内容・参考になった内容＞

- ・親に求められるあり方の重要性、大切さを教示され、人としても学ばねばと思う所です。
- ・ここで出会われた方が、心のつながりになられたら～と願うものです。

【保護者Eさん】

＜感想・意見など＞

- ・分かりやすい説明で、「どのように取り組んでいったらいいか」分からない中で、目標をもって取り組むことができます。

＜印象に残った内容・参考になった内容＞

- ・愛着の大切さ
- ・子どもの話を聞く、共感



【保護者Gさん】

＜感想・意見など＞

- ・以前、子どものつめかみのご相談をしたとき、スキンシップが足りないと言われ、できるだけチャンスがあれば、ふれるように心がけました。
- ・高校生なので、いやがると思っていましたが、喜んでいて、驚きました。自分では、できているつもりだったので、指摘していただいて、本当によかったと思いました。

＜印象に残った内容・参考になった内容＞

- ・やることを言葉に書いて貼っておくというのは、思い出しやすく、いいなと思いました。

【祖母Dさん】

＜感想・意見など＞

- ・なかなか進展がなくて、少し投げやりになっていた時期だったので、大変、参考になりました。
- ・自分では、充分良い関わり方をしていると思っていましたが、いろいろと反省させられました。



【保護者Fさん】

＜感想・意見など＞

- ・子どもが家庭で、「安心・安全」を感じられるように心がけてきました。すると、まだまだ不安定ですが、子どもが登校できる日が増えてきたように思います。
- ・「不登校は99%、1日3分の言葉かけで解決する」という本を元に、「子どもが変わってきた」「学校に行けるようになった」と話されている親は、「よい関わり方」を少なくとも3ヶ月以上、続けているというお話を聞き、やはり、・・・と思いました。

＜印象に残った内容・参考になった内容＞

- ・「HSC」のお話は、衝撃的でした。うちの子にぴったり当てはまると思ったからです。
- ・学校から帰ったら、あれこれ言わず、リラックスできる環境をつくっていかないといけないと、反省しました。

【フリースクールの先生Hさん】

＜感想・意見など＞

- ・日頃の実践が再確認できた。
- ・特に、家庭内の問題がキーであると思った。

＜印象に残った内容・参考になった内容＞

- ・常に、実践を確認しなければならないと思った。
- ・愛着関係が基礎であり、さらに学習しなければならないと思った。

◆子どもが不登校の時の、「父親の役割」とは、・・・何か？

*9月セミナーでは、このテーマについて、ていねいにお話をする時間がなかったので、お話しした理由や背景についても新たに付け加え、以下にまとめました。
少し長いですが、読んでいただくと、「父親の役割」についての理解が、より深まると思います。

★母親を中心とした子どもの「発達モデル」は、時代遅れとなってきた！

不登校の子どもを主にフォローするのは、母親のケースがたいへん多いのですが、・・・

母親を中心とした「発達モデル」は時代遅れとなり、もはや、多くの子どもの生活経験を反映していないと言われています（Cabrera & Peters, 2000）。例えば、アメリカでは、1965年から2000年にかけて、父親の子どもとの相互作用の時間は、98%も増加しているといえます。（Pleck, 2010）日本においても、共働きの家庭は増加し、イクメンや育児休業等に象徴されるように・・・
「父親の役割」観も、徐々に変化してきています。

このように、父親や母親の「役割観」が変化しつつある中で、
子どもが不登校の時の、「父親の役割」について考えることは、とても重要と思い、
9月セミナーで取り上げることにしました。



★子どもが不登校の時に、父親にできることは、・・・ある？ ない？

結論から言いますと、
不登校の改善に向けて、父親にできる重要なこと（「父親の役割」）はある・・・と言えます。

★どのように関わっていくと、「父親と子どもとの安定した関係」が築けるのか？

青年期の子どもを対象とした数多くの研究から、・・・
どのように子どもと関わっていくと、「父親と子どもとの安定した関係」を築くことができるのか、分かってきました。
現在、3つの要因が、分かっています。（Schoppe-Sullivan et al., 2019）



- 1 父親が子どもと「時間を多く」過ごしていること
ですから、仕事が忙しくても、子どもと一緒に過ごす時間をもつことが大切です。
- 2 父親が、子どもに対して「**応答的**」であること
つまり、一方的ではなく、指示的ではなく、命令的ではない・・・ということです。
「相互的」、「対等的」と言い換えてもいいかも知れません。
- 3 子どもとのやりとりにおいて、父親の「**情緒的な質**」が高いこと
例えば、怒らない、落ち着きがある、いつも冷静である・・・などです。

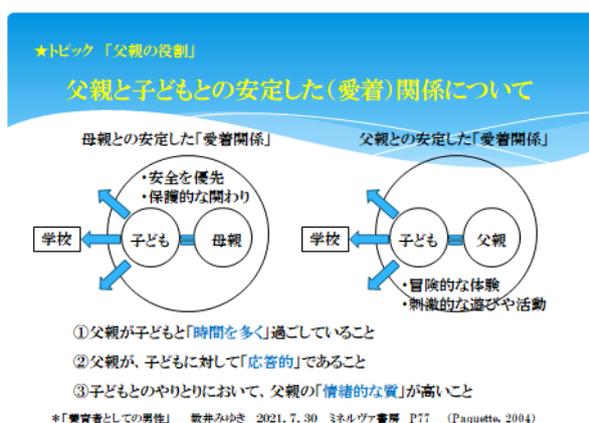
★「父親と子どもとの安定した関係」が築かれると、子どもは、どのように行動するのか？

そのようにして築かれた「父親と子どもとの安定した関係」を土台として、・・・

父親は、子どもに、**冒険的な経験**や、**刺激的な遊びや活動**をさせようとするのですが、(下図参照)

父親は、そのような場面で、子どもが「**安心**」して、それらの活動に取り組めるようにします。

すると、**子どもは**、父親を「**安全基地**」として自律的にチャレンジし（「**探索行動**」を起こし）、もし困ったことが起これば、父親を頼りとして気持ちを立て直し、問題解決的な行動を起こしやすくなる（再び「**探索行動**」を起こす）と・・・パケット・ダニエル（2000）は述べています。



★「父親との安定した関係」が、・・・再登校を含む「探索行動」を起こす原動力となる！

パケット・ダニエルの指摘を元に、「父親の役割」ということに着目してみると、・・・

「父親との安定した関係」は、再登校を含む「探索行動」を生み出す方向に少なからず影響していることが考えられます。(上図参照)

子どもの立場に置き換え、あと少し具体的にお話ししますと、・・・

子どもは、**父親を**、再登校を含む「**探索行動**」を起こす際のモデルとして捉えているのではないかと、・・・私は、考えます。

つまり、「**お父さんなら、きっと、このように行動するだろう**」・・・といった感覚・イメージで！

ですから、不登校の改善を図っていくためには、

「父親との安定した関係」を築くとともに、**父親は**、子どもが「**探索行動**」を起こす際のモデル的存在として関わっていくことがきわめて重要だと、・・・考える訳です。

それが、不登校の改善に向けて、父親にできる重要なこと（「父親の役割」）だと言えます。

文責 西村明倫 （「不登校対策セミナー」担当、「鳥取タンポポの会」アドバイザー）

公益社団法人日本心理学会認定心理士

メンタル心理カウンセラー

一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト